

■歴史

- 1912（大元）年 成瀬仁蔵の外遊に際し、成瀬不在中に桜楓会員と一部最上級生の希望者が週 1 回の修養会を開く。
- 1916（大 5）年 三泉寮にてタゴールとの瞑想や祈りを経験。帰京後 9 月、桜楓会「天心団」結成。成瀬の帰一思想を深めることを目的に有志による週 1 回の修養会を行う。「天心団」の名称は、成瀬自身の詩「天心自念身心盈/天命感応創新生/天真爛漫自流露/天賦人格竟熟成」より命名されたもの。
- 1919（大 8）年 3 月成瀬逝去。4 月麻生正蔵第 2 代校長に就任。
- 1920（大 9）年 桜楓会が組織変更をして「社団法人」となる。
- 1922（大 11）年 桜楓会修養会「天心団」復活。
- 1937（昭 12）年 4 月桜楓会修養会を改称して「成瀬先生研究会」として発足。7 月『成瀬先生書誌』が研究のよりどころを得る目的で「成瀬先生研究会」により編集された。
- 1939 年（昭 14）3 月桜楓文庫として『成瀬先生講演集』全 10 冊が発行開始された。1940 年完結。
- 1948（昭 23）年 6 月成瀬の宗教教育を学ぶ場として修養会が開かれ、月 1 回『成瀬先生講演集』をテキストにして精神教育論について理解を深める
- 1949（昭 24）年 4 月桜楓会修養会は発展的解消して「成瀬先生研究会」と改称。「法華経研究会」を作る。
- 1952（昭 27）年 1 月 29 日成瀬先生告別講演記念日を期して、母校において帰一思想研究を中心とする「成瀬先生研究会」が発足。「天心団」の意義を継承しつつ、将来への発展をはかり、次代へ伝統を伝えるために、民主的な時代にふさわしく「泉山会」と改称して誰でも参加できる制度とした。桜楓会「成瀬先生研究会」と「法華経研究会」は、発展的に解消し、「泉山会」第 1 回会合が開かれた。
- 昭和 30 年代 「泉山会」は桜楓会研究部の中で精神運動の深化を計る。
- 1955（昭 37）年 「泉山会」は一時的に「精神生活研究会」と改称。
- 1964（昭 39）年 創立 60 周年記念事業として「女子教育研究所」が「成瀬先生研究会」を母体として創設される。
- 1965（昭 40）年 大橋廣桜楓会理事長が「泉山会」の一般化、社会化を訴える。
- 1966（昭 41）年 4 月総会にて大橋理事長より、会員相互のために泉山会活動と家庭生活文化研究会を推進してゆくよう、多年の計画が盛り込まれていた。泉山会活動を成瀬先生研究会と帰一協会運動に分けた。「従来は精神生活講座といったがこれを泉山会活動として成瀬先生研究会と帰一協会運動に分けた。成瀬先生研究会は成瀬先生の思想が世の中に迎えられて来ている現在、我々は一応白紙にかえて建学の精神を研究してゆきたい。」（177 号 3 面）
- 1966（昭 41）年 11 月 19 日～21 日「泉山会秋季研修会」が開催。「泉山会研修会」は「成瀬先生夏季研修会」として受け継がれた。
- 1976（昭 51）年 桜楓会「泉山会」は「成瀬先生研究会」と改称。創立者の精神を理解し学ぶ存在意義は大きい。
- 昭和 50 年代 桜楓会生涯教育講座は「成瀬先生研究会」のもとに置かれ、成瀬先生の理念に関するもの、宗教問題をテーマとするものが多く扱われた。
- 1978（昭 53）年 「成瀬先生研究会夏季修養会」開催。現在は終了。
- 2011（平 23）年 「成瀬先生研究会」から「成瀬仁蔵研究会」に名称変更。
- 2023（令 5）年 成瀬先生研究会特別講話で、対面と後日録画配信で開催する。（例会は対面のみ）
- 2025（令 7）年 成瀬先生研究会例会で、対面と ZOOM 配信のハイブリッドで開催する。